

授業概要

質問紙調査（あるいは質問紙実験）を実施した場合を想定した統計分析の演習を行う。本来的には調査計画の立案、質問紙の作成から進めるべき授業内容であるが、本授業では分析の演習に特化した形で授業を進める。よって、下記「履修上の注意」に記したように、関連する諸科目を履修済み（できるだけ単位取得済み）でないと、本授業の内容に対応できないと認識してほしい。授業で統計分析に取り組むほか、不定期に分析や読み取りに関する宿題を課すので、自分でSPSS等の統計ソフトを操作することが必要な授業となる。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方・成績評価、など）
第 2 回	心理学統計法 I・II の復習①（確認小テストの実施）
第 3 回	心理学統計法 I・II の復習②（デモデータを用いた変数の種類の確認）
第 4 回	デモデータを用いた統計分析実習①（調査目的と質問紙の構成、分析計画）
第 5 回	デモデータを用いた統計分析実習②（群間の従属変数の平均値の差に関する分析）
第 6 回	デモデータを用いた統計分析実習③（既存の心理尺度を用いた場合の分析）
第 7 回	デモデータを用いた統計分析実習④（新たに心理尺度を作成する場合の分析）
第 8 回	デモデータを用いた統計分析実習⑤（各種の統計分析に見合う変数の選定）
第 9 回	中間まとめ
第 10 回	デモデータを用いた統計分析実習⑥（相関モデル、因果モデルの違い）
第 11 回	デモデータを用いた統計分析実習⑦（構造方程式モデルの基礎）
第 12 回	デモデータを用いた統計分析実習⑧（Amos 体験）
第 13 回	実証研究の実施に向けて①（調査目的に見合う尺度、質問項目の選定）
第 14 回	実証研究の実施に向けて②（調査目的に見合う分析手順の確認）
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	レポート提出

到達目標

心理学の実証的論文を執筆するために必要な、データ分析能力、統計結果に関する表現能力を身につけることが目標となる。

履修上の注意

- 心理学統計法 I、心理学統計法 II を履修し、単位を取得している学生を履修学生の前提とする。これらの科目を履修済みでないと理解が困難な授業内容であるので注意してほしい。なお、心理学研究法、調査研究法も履修済みであることが望ましい。
- 演習という性質上、受講学生数を制限する。受講希望者が一定人数を超えた場合には、第 1 回授業において関連科目の履修の有無の確認、理解度を確認するための小テストの実施、等を行い、履修学生を選抜することもある。受講を希望する学生は第 1 回授業に必ず出席すること。何らかの事情で第 1 回の授業を欠席する場合は、事前に必ず担当教員へ事情を連絡すること。
- 宿題を出す場合には、授業時間外にも自分で分析を実施する可能性がある。

予習・復習

不定期に宿題を課すことを予定している。宿題に取り組むことが予習にも復習にもなるように構成している。また、これまでに履修している関連科目の内容を自分で復習してから授業に臨んでほしい。

評価方法

平常点（授業への参加態度、理解度、等）が 3 割、宿題が 2 割、定期レポート 5 割で、総合的に判断する。第 1 回授業で成績評価の詳細を説明する。

テキスト

テキストは指定しない。統計分析に関する書籍はさまざまにあるので、授業内で随時、紹介する。自分に合った書籍を 1 冊、手元におくと復習の役に立つ可能性はある。